ガチャーン
くすりを……
よくも…
よくも…
ワッ
なんだよ
ええい
やっちまえ
アチ
アチ
金持ちんちの
小間使い
エーイ
デベソッ
やめて……
やめて
やめて
ワ
おねがい

海を映したような
青い青い瞳の人に出会った
さざなみが　よせてはかえす
あの人は　ぼくのために　うたった
ぼくはあの人を愛した
波頭がくだけては生まれる
ぼくはあの人を愛した
あの人はぼくのためにうたった

マリーン
いつまでも
磯を洗う波のように
くりかえし
くりかえし
おもいをこめて語る
ものがたりを　お聞きよ
原作／今里孝子

…だいじょうぶ？
平気だい
コイン
おとしたの？
わたしも
さがしていい？
服が……
よごれるよ
いいの それで
ぜんぶかしら
不足なの？
あなた
だれ？
……おくすり
いるんでしょ
わたしなにも
もってないけど
……これでは
だめかしら

知らない人から
もらえないい
知ってるわ
さっき会ったばかりだもん
エイブ
いいえ
わたし
…あなたを
知ってるの
…あなたに
まえに
会ったのよ
チ
よう エイブ
入口のきれいな
お嬢さんは
だれだね
…これで
いつもの
水薬もらえる?
こいつは銀だよ
いい細工だ
高価すぎる
薬代はいいから
お嬢さんに
かえしな
チ

おかえり
エイブ
ただいま
かあさん
気分いいの
ああ
きょうは
すこしはね
ごめんね
おまえに
世話かけて
ペイトンさんは
よくして
くださるかい？
わたしが　あの
お屋敷でもっと
働けたらね
きょうね
きれいな
女の人に
会った
おや
おや
きれい
……
こんど
会ったら
かえすんだ
エイブ
わたしは
あなたを
知ってるの
チョン

エイブ！
そっちの
いけがきは
そろえた
かい？
うん
すっかり　もう
なれたな
おっかさんの
かわりにおまえが
ペイトン家に
手伝いにくる
ようになって
…三年か
おっかさん
あいかわらずかい
学校に　あまり
いけないだろ
なれてる
ポーン
あら　エイブ
あんたまた
きてたの
あ　ディデット
お嬢さん　これは
なにしてるの
そのボール
ちょうだいよ
くさいわね
あんたって
……

これだれの?
あなたの?
こんなものを?
あずかり
ものだよ
かえせよ
ディデット
お嬢さん
ディデット
ペ
ペイトンさん
パパ!
使用人と
ふざけるん
じゃない
きなさい!
なーによ
かえすわよ
こんなもん
ペイトンさんは
よくして
くださる?
うん
かあさん

あ……
ひさしぶりね
働いてるの?
えらいわね
べつに
……
かあさんが外に
出られないからね
ペイトンさんは
仕事をくれるけど
バカ娘が
いじわるだ
ああ…そうだ
これかえすよ
ずっと
かえそうと思って
もってたんだ
はい
それね ひとつしか
ないの だから
いいのよ
もってて
もう かたっぽ
どうしたの?
なくしたの?
……船においてきてしまったの

マリーン
海（マリーン）…
似合わない？
マリーンって
そんなのずるいよ
…あんたって
青い目してるんだね
マリーン

エイブ・リーマンは欠席が多いね
働いてるんですよ
まだ十歳なのに?
エイブ・リーマン…知ってるよ 彼の学資と生活費の全面援助?わたしに?
そんなにいい子なのかね?
ええ ペイトンさん首席なんです ぜひ進級させたいがこのままでは……きょうも学校にきてませんし
エイブ!
エイブなら朝から庭よ
エイブ! 早く! おっかさんが……!!
ゆさん!

エイブ！

もう意識が…
かあさん
かあさん
かあさん

ごめんね…エイブ
なにもしてやれなくて…
かあさん！

おとうさんがね…
おとうさんが…

エイブは…？
みよりもないし…
施設にいくしか…
かわいそうに

いや
わたしが
ひきとる
ペイトンさん！

マリーン!!

かあさんが…
かあさんが…

かあさん

……

やさしい手
やさしい指
…ささやくような
うた…

ささやく
ようなうた

マリーン…?

わたしは
国家じゃない
きみを養育する
義務はない
だが きみは
成績がいい
上の学校へ
すすませて
あげる
きみは いつか
これをわたしに
かえさなければ
ならないよ

ペイトンさんは
いい方だよ
しっかり
お手伝いと
勉強をおし
ここが
きみの
へやだ

………

エイブ
なにをしてるの
エイブを
呼んでよ

……

その帽子じゃ
ないわ　もう
学校に
おくれちゃう
じゃない
お嬢さま
こちらでしょう

エイブも
のせておいき
こんどから
同じ学校
でしょ
ママ!

まァ　あきれたわ
使用人の
くせに
わたしの
学校
名門なのよ

うまく
とりいってさ
パパに
なによ
貧乏人の
くせに
止めてよ

なによ　エイブ
ちこくする気
あんたとは
いかない

エイブ!!

そう よく
できましたよ
エイブ
みなさん
わかりましたか?

ほんとうなら
あの子は
学校にだって
いけないのよ
うちのパパが
かわいそうに
思って
ひきとったん
だから
まあ
そうなの

よーエイブ
金持ちんちの
使い走り
いい
なァ
相手に
するんじゃ
ないわよ
エイブ

あんたの
することじゃないだろ
さしず

エイブ
お
いいのかよ

おれたちさ
ロンドンのほうへ
いってみようと
思ってんだ
いっぱし かせぎの
あてがあるんだ
ほんとう
に
かせげるの
かい?
つれてって
やっても
いいぜ

お金さえ
あれば!
かせげれば
人の世話に
ならないですむんだ
なんか

ほんとうに どこかとおくに いってしまおうか これからだって ひとりで生きて いけないことはない
ザザザザ
ザ
マリーン…
元気？ エイブ なにか考えごと していたのね
…べつに
あなたは この町に住んで るの？
いいえ
あなた おとななんだね ぼくも早く おとなに なりたい
旅行者なの？
……
おとなになったら どうするの？
自由になる！ ずっと自由になる 人の世話になんか ならなくても いいようになるんだ
きっと いまに そうなるわ

…ぼくが大きくなるころ
にはマリーンは　もっと
大きくなってるね？
おばあちゃんになってる？

いいえ
エイブ

そんなに年を
とらないわ
あなたが
大きくなるまで
まってるわ

マリーン！

マリーン！　なぜ？
なにかいった？

じゃあ
ぼくは大きくなるよ
すぐ大きくなるよ
まってて
泣かないで

ごめん！
マリーン！
泣かないで
マリーン

こんなにおそく
帰ってきて
いいと思ってるの
あの不良たちと
会ってたんだわ
女の人と
会ってたんだよ
うそよ！
だれよ それ！
きみに
関係ない
い…いそうろうの
くせに!!
こんどはいつ
会えるのか
――こんど
いつ
この町に
くるのか
聞けばよかった
なんだか…
とても
いいところの
人みたいだ
きれいな
マリーン
泣かないで
早く大きくなる
早く自由になる
まっていて

やあ　きみ　こっちへきて　ネット張るのを手伝ってくれ
テニスやるんですか
ああ　じゃ　きみが　ペイトン氏が投資している少年か
テリー・ローブ先生は　あたしの指導に　みえたのよ　なにをしてるの
おしゃまさん　ディデットは　こんなにいい足をしていたのかな
あら　フフ
足でテニスができりゃね
やったこともないものが　大口たたかないでよ
たかが　ボールの打ちっこ
あらそう！
じゃあ　みせてほしいもんだわ
さあ　ラケットを　どうぞ

パ
コーー
キャア
あなたのは
テニスじゃないわ
ただの板回しよ
要するに
勝てばいいんだ
!
テニスを
やったのは
はじめて?
まった
教えてみたい
習わないか
わたしの
コートは
使わせないわよ

エイブ！テニス・クラブに入らないか？
そんなヒマない
テリー・ロープさんがきみをどうしても入れるってさ 彼はこの学校の卒業生なんだ
ひじをいためるまえはシングルスの全英ベストフォーに入ってたんだよ
テニス・クラブに入ったんですって なにさまだと思ってんのかしら
わたしに勝ったのなんてまぐれだわよ
キャー
ディデット あんたとこの彼ステキ！
わたし ラブレターだそうかしら
だめよ 彼は ディデットのお手つきだから
エイブ……
我が家のねこは…
とびそこなうと
わははは
はずかしがり
おこると
すね
おてんきがいいと…
いっしょにおさんぽにいきたがります
おさんぽですか
…ネコと
わーい おさんぽ

パ
ピ
ピ
ゲームセット
ワー
ワーワー
ワー
きょうのヒーローはエイブだぞ
完封じゃないか
地区予選までいけるぞ
ワーワー

見てた!?
勝ったんだ!
ええ
すてきだわ
…背がのびただろう あなたと もう かわらないよ
すてきだわ……
ずっともってるんだ
……これ…… 宝物だよ
……あすも くる?

…いつも
これないけど　いつも
あなたのことだけ　いつも
考えてるわ……
いつも
いつもよ
あなたが
好きよ
……
……
いつも
いつも…
エイブがきょう
テニスの
他校試合で
完封したそう
ですね
はじめて一年にも
ならないのに
すばらしい
ディデットも
帰ってきたし
もうすぐもどると
思いますわ　テリー
カタン

エイブ!

話があるのよ!
昼間あなたが
会ってた女の人は
だれなの

関係ない
わたしが
聞いてる
のよ
関係ない
ぼくの
知りあいだ

へえ! じゃ
その人は
あなたが
うちの世話に
なってるのを
知ってるの?
あなたが一文無しで
シューズもラケットも
借りものだってことも
知ってるの!?

いいとこの
お嬢さんみたい
だったわ
あなたのこと
本気で相手
してるのかしら
!?

これ覚えてる?
ディデット

ぼくが六つのとき
あの人から
もらったんだ

かあさんが
死んだときも
あの人は
きてくれた

あの人は
いつも ぼくの
そばにいるんだ
いつも
ぼくのことを
考えているって
そして
待っているって

あなたのような
一文無しを……
いまさらきみが
なにをいおうが
あの人はぼくのことなら
なんでも知ってる
きゃーっ
ディデット!!
アーアー
エイブが!!
ディデット!!
わあ

！

貧乏人のこせがれが！身分不相応に!!
へやへもどれ!! ことと しだいに よっては
ペイトンさん

エイブは ぼくがつれていきます
テリー

あらためてごあいさつにきますよ おいでエイブ

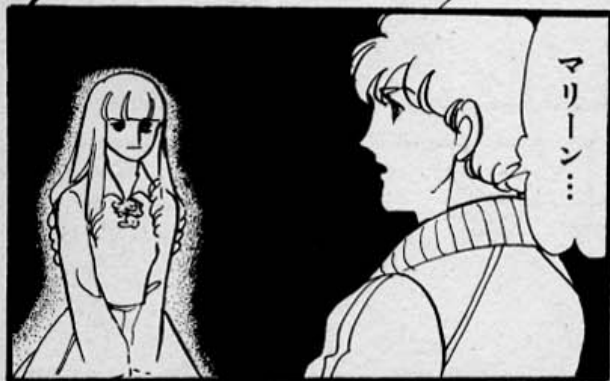
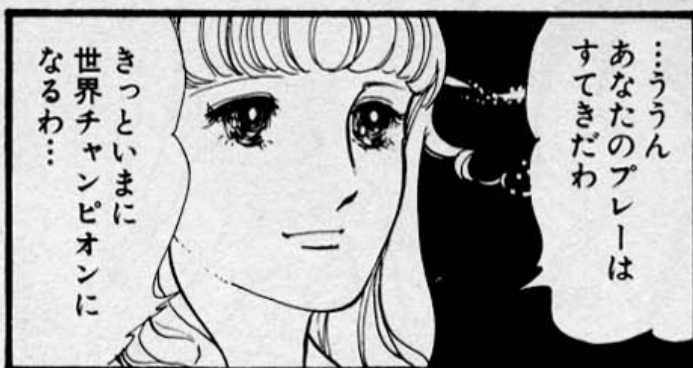
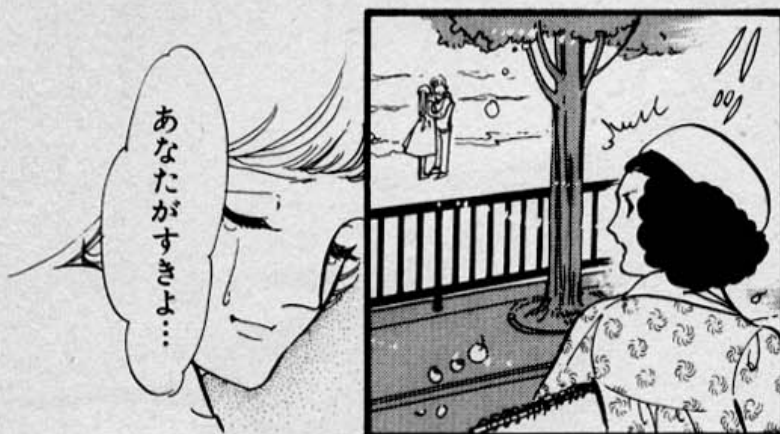
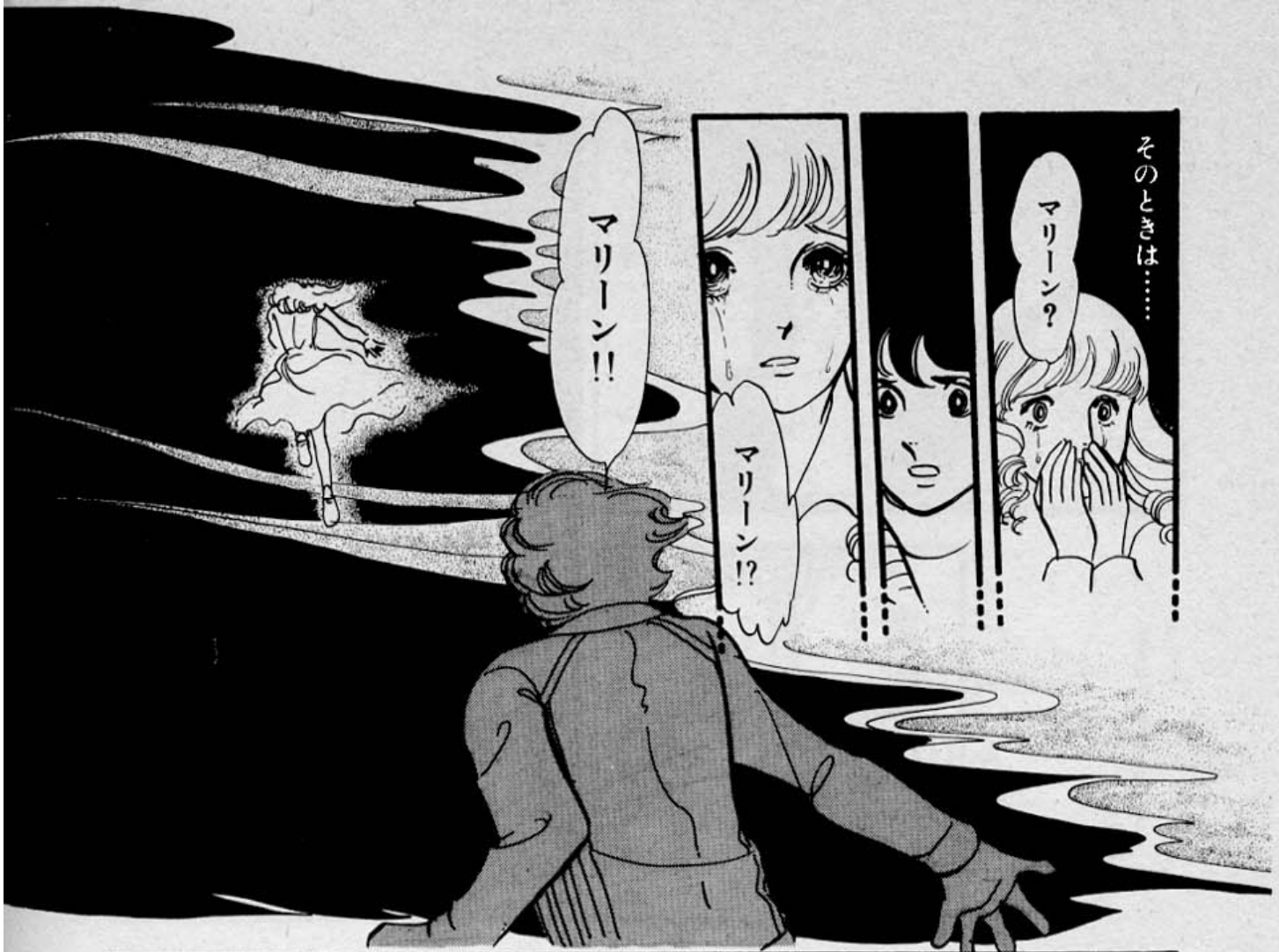
ディデットのヒステリーだってことはわかっている きみが ぼくのところへくるからにはテニスをやるんだ いいね？

テニスで金持ちになれる？
金がほしいか

いくらでもかせがせてやる！

ギュ

グリップが甘いぞ
ひねりをきかせろ
もっと正確に判断するんだ
まぐれをねらうな
そいつだそのボレーだ
スマッシュ!!
シングルスに新星！
エイブ・リーマン　16歳
元全英ベストフォー
テリー・ロープの指導のもとに．
トーナメントを総ナメ
かみつくようなボレー
水際立った　ネット・プレー
賞金が多いと彼は　はりきる必ず勝つ!!
まあ　これエイブ
すごいわディデットのとこにいた彼でしょ
なによプロテニスですって……お金もうけのオニみたい
―エイブ―

賞金つりあげ「そんな少額では話にならない」
対全米チャンピオンと
ワァァア……
テニス界の守銭奴！
テニスはもともと上流のスポーツなのに
エイブ・リーマンのテニスには気品も優美さもない！ 力まかせに打つだけだ！
かつての全仏ネット際で踊らされる
雑魚のセリフは気にするな！
いったとおりに試合をやれ！ 勝つんだ！
おまえにそのボレーがあるかぎり天下無敵だ！
マリーン…

プロテニスに
入ったんだ
知っているわ
…けいべつする?
賞金の額で
試合をしてるんだ
金もうけのためさ
…ううん
あなたのプレーは
すてきだわ
きっといまに
世界チャンピオンに
なるわ…
マリーン
あなたは
予言者?
マリーン
……
いまはあなたが
小さくみえる
……
なぜだろう
あなたは
むかしはとても
背が高かった
のに…
あなたが
大きくなった
から……

チャンピオンに
なる
あなたが
いてくれれば
なにも
こわくない
あなたがすきよ……
わたしの
生まれてはじめての
恋だったの
あれは…！
あの女の子は…！
それまでわたしは
そんなこころも
知らなかったわ
人のいうまま…
かざられた
お人形みたいに…
あなたが
自分のことを
話すのは
はじめてだ
マリーン …チャンピオンに
なるまでまってててくれるね？
そうしたらそのときは……

そのときは……

マリーン？

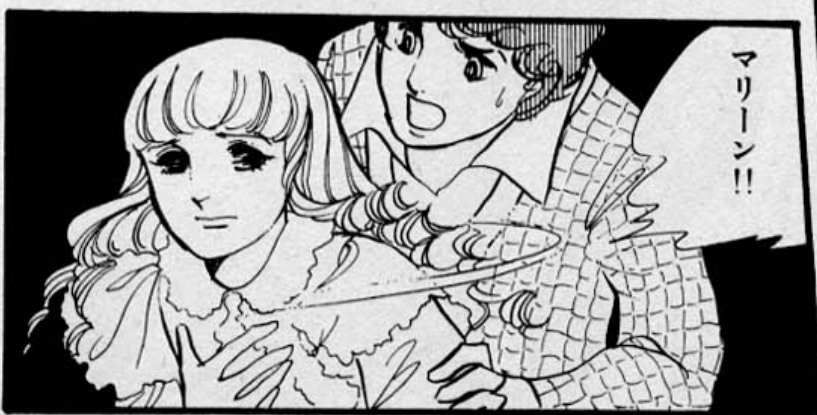
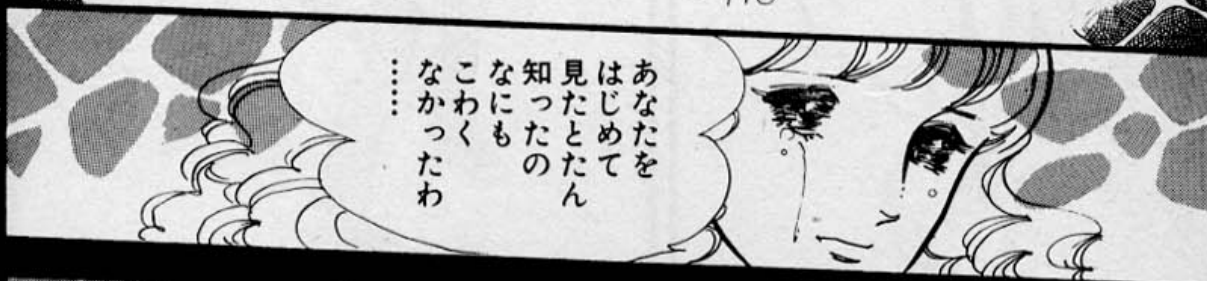
マリーン!?

マリーン!!

うちの学校の下級生よ 三学年下だわ
おけしょうでもしておとなっぽく見せてるんでしょうけど まだ十五だわ!!
年下!?
それよりね なにより身分不相応だってこと!
あの子の名はセオドラ・ビクトーリア・フィールズベリ フィールズベリ伯のひとり娘でいわば貴族のお姫さまよ
学校では特待生よ いつも上流のとりまきといて このわたしでさえ近よれないくらい
あなたみたいな下町っ子の出る幕じゃないわ!
それに婚約者がいるわ! 生まれたときから家どうしできめられた相応の婚約者よ ビンセント・クラークって
あなたなんかいくら好きでもだめなんだから!
ディデット!!
エイブ!!

人ちがいだ!!
マリーン!
マリーン!
マリーン!
マリーン!
きみの名まえは…セオドラ・ビクトーリア?
……
婚約者がいるって?
マリーン!!

そいつと結婚なんかしないだろう!?
………
じゃあなぜきたんだ!!
金のつぎは身分か!
あなたのことを知りたかったの
なにもかも知りたかったの……あなたがふれるものにふれて……

見るものを見て
……
声を聞いて……
あなたの瞳を
のぞいて…
いつも…いつも
いつも
いつも……
あなたの夢を見る
ために
たとえいっときでも
あなただけを
見つめるために
あなたを
はじめて
見たとたん
知ったの
なにも
こわく
なかったわ
……
あなただけ
が
好きなの
……
マリーン!

マリーン！
どこだ？
いっしょに
とおくへいこう
もういちどきてくれ
マリーン
マリーン……！
エイブ
エイブ・
リーマン
エイブ
エイブ
やつは
なにかに
つかれた
みたいだ
新全英
チャンピオン
若手のエイブ・リーマン
十九歳！
インタビューを！
カンソーを！
サインして！
おめでとう
エイブさん
おめでとう
どいてくれ
恋人は
いますか？
意中の
ひとは？
ヘン
若造が
イイ気に
なって
力まかせの
プレイと
悪評も
ありますが
勝たなきゃ
意味がない

エイブさん
たとえば
アマチュアの
チャンピオン
ビンセント・
クラークは
貴族としての
品位を保った
テニスを…
ギクーッ
ビンセント・クラーク(22)
ビクトーリア嬢(16)との
結婚をまぢかに
マリーン…！
世界チャンピオン
おめでとう
いいニュースよ！
ビクトーリア
伯爵令嬢と
ビンセント子爵の
おふたかたが
ご結婚なさるわ
ビクトーリアは
学校をやめて
エジンバラの
おやしきに
帰っておしたくよ
もう　招待状は
くばり終え
ヨットの用意も
すんだんですって
でていけ
今年の社交界の
十大ニュースの
ひとつだわ
あなたが
いくら思っても
だめだわよ!!

どうしてエイブにそんなふうにいうんだ
早くあきらめればいいんだわ!

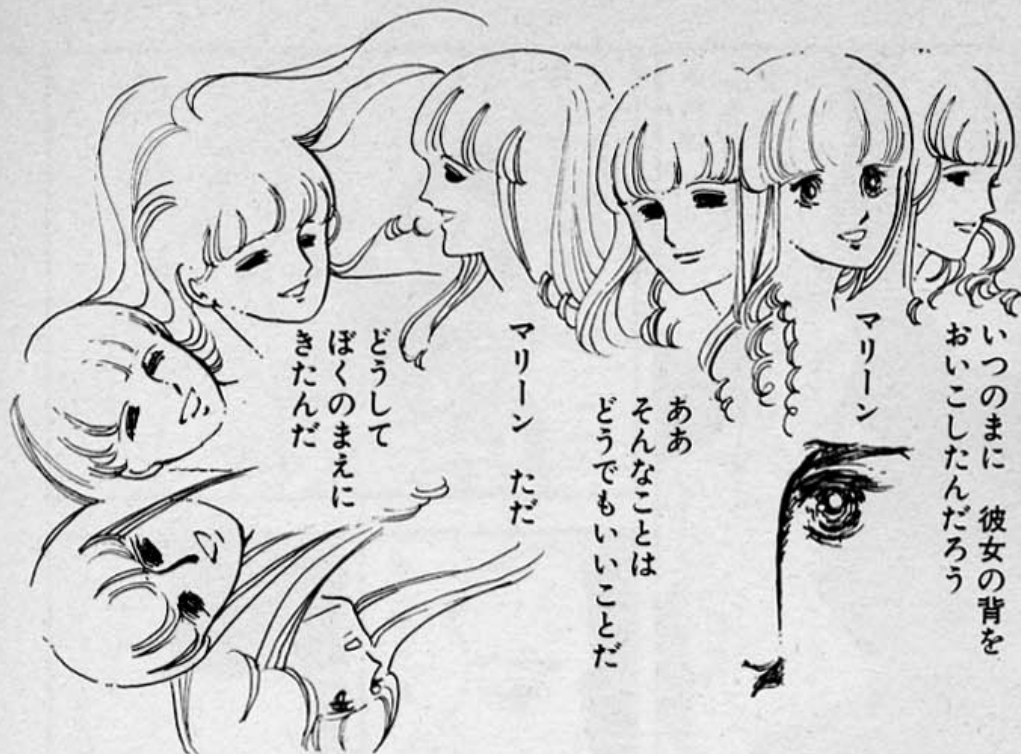
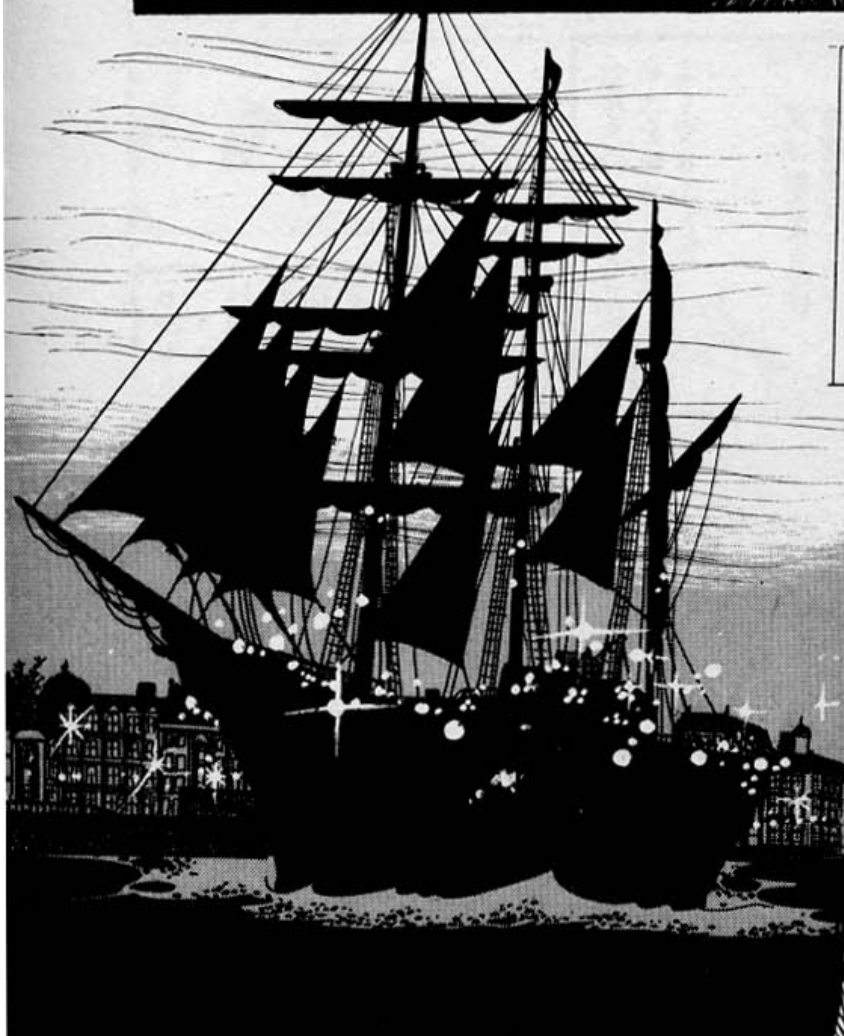
それはいちばん悪い愛し方だ
エイブはそれではきみの気持ちなどわからない

いじわるなんじゃないわ!

ディデット

ビンセント・クラーク・トラウトからわたしたちに結婚披露宴の招待状がきてるよ
なぜ

金持ちのパーティに名士を集めるのはよくやることさ
式は教会であげ披露宴はヨットだとさにぎわうだろうな
ビンセント・クラークはアマのシングルスのチャンピオンだ若手のプロのきみにも興味をもっておろうよ

行くか?ビクトーリア嬢にかたおもいしてるのか
そんなものじゃない……

ぼくは
小さかったのに
いつのまに　彼女の背を
おいこしたんだろう
マリーン
ああ
そんなことは
どうでもいいことだ
マリーン　ただ
どうして
ぼくのまえに
きたんだ
会いたい
あきらめが
つくかも
つかないに
きまってる
そのときは
ザザ
青い顔して
息をつめて
死にかねない
様子だな
おいわいの
席だ
しっかりしろよ

おめでとう クラーク
やあ クラーク
おめでとう
おめでとう
やあ リック
やあ キース
ありがとう シーフェル

すごい ヨットだな
このまま 世界一周の 新婚旅行に いくんだとさ

金持ちは ちがうね
世界 七か国に 別荘があって
古美術の 収集が趣味で それだけでも 一財産だと いうから

おや 走ってるのか 沿岸の灯が きれいだな
ええ 星がきれいに 見えますよ
おい 花嫁さんは どうした？ 今夜は 花嫁と星を 見なけりゃ

いや 教会で式を あげたあと…… なにせお姫さま だろ
こいつ われわれに 見せない気だな
いや ちょいと 服をきかえて 休んでるだけ さ

すぐくるよ
なにせ今夜から
ぼくはいとしい
ハズになる
んだから
やさしく
してやれよ
色男
おや!
テリー・ローブさんじゃ
ないですか
よくきてくれましたね
やあ ビンセント
初対面だが
ごぞんじ
だろうね
エイブ・リーマン
ああ…
プロの世界
チャンピオン
若さと力と
……
根性でとった
タイトル
金への!
しょくん
よしたまえ
プロは
金のために
テニスを
するのだから
金のために
やるのです だから
お遊びで
やる人の
千倍も真剣に
やります

われわれが
スポーツをやるときは
スポーツの精神の
ために真剣になる
それは金では
買えない

そのかわり　あなた方は
その他のものを金で買ってる
そのスポーツをやる
ヒマな時間をもね

きみの意見は
スポーツを
金でみせてる
いいわけだ

こいつは
おもしろい
プロとアマの
チャンピオンか！
ひとつやって
みたら！
この船には
コートが
あるんだろう？
ああそいつは
うってつけだ
どうです
おてあわせ
願えるかな
ぼくのコートで

いいコートだ
お嬢さんも
やるのかな
いや
テニスには
なんの興味も
なさそうだ
でも
そのうち
教えて
みよう

サーブは？
どうぞ
あなたから

てかげんは
しませんから

パーン
おお
ちょいとした
ミスだ
しょくん
なるほど
かみつくよう
な…か
パーン
スパ
あぜん

パ
ワ
ダ

クラーク!
ツツーっ
クラーク
花嫁さんが
心配して
飛んで
きたぜ!
ビク
トーリア

めでたい日だってのになにもあんなにムキになることはないだろうに花嫁がびっくりして泣いてるじゃないか
心配ないよ！ちょいとくじいただけだよ

足だいじょうぶかね
なあに今夜にさしつかえることはあるまいさ
ハハハ

ザザ

ザザ
ザザ

マリーン

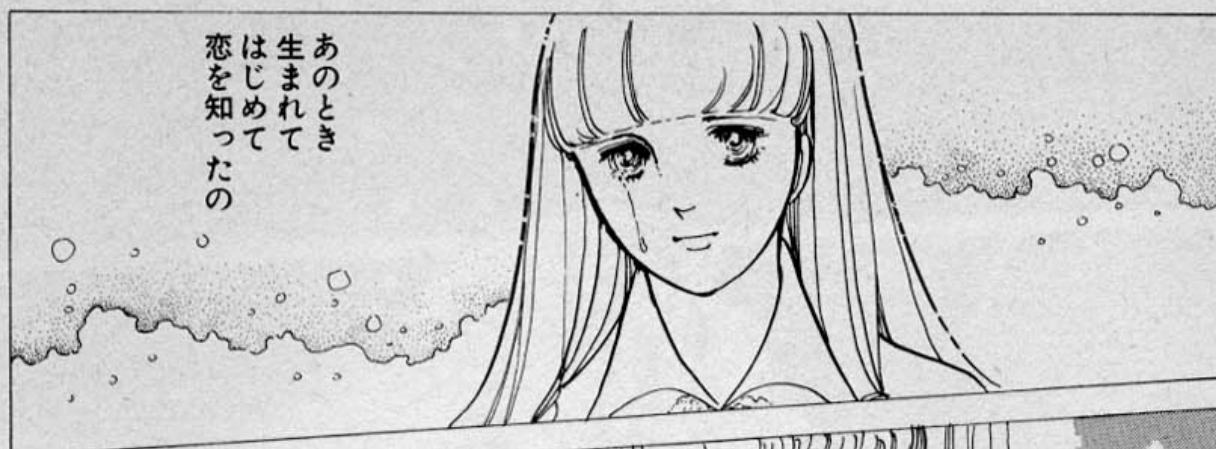
…まだここにいたのかエイブ　さあ船室へもどろう
やけに風がでてきたな

エイブ

花嫁が海へ……

エイブ
——飛びこんだ
エイブ
とおしてくれ マリーン
落ちたのか
エイブ
ちがうんだ
飛びこんだんだ あっという間に さくをこえて
止めるまも あらばこそ
船を止めろ
ビクトーリア

イヤリング!?
なぜ　飛びこん
だんだ
結婚式を
あげたばかり
なんだぞ
船を止めろ！
だれかボートを
おろしてくれ
早く
エイブ！
かたほうは
船においで
きてしまったの

あのとき
生まれて
はじめて
恋を知ったの
わたし
あなたを
知っているのよ
エイブ
エイブ！
ぼくが六歳のとき
さいしょにマリーンに
会って…
マリーンから
もらった…
きょうが
はじまりだったんだ
マリーンは
ついさっき
生まれてはじめて
ぼくに出会ったんだ
——そして　この夜　自分が
他の男のものに
なることを悲しんで
波間に落ちて
いったのだ
そして

そして
くりかえし
くりかえし
ふかい　海の底から
彼女の夢が
ぼくを訪れたのだ
あなたのことを
知りたかったの
あなたが
ふれるもの
見るもの
声を聞いて
……
瞳を
のぞいて
いつもいつも

《おわり》

別冊セブンティーン 1977年5月号に掲載